

科目名	認知心理学	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			総合政策学部	□ 必修 ■ 選択
			学部	□ 必修 □ 選択
英文表記	Cognitive Psychology	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	せと ひろし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	瀬戸 泰	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	人は、自身を取り巻く環境をどのように認識し、処理しているのでしょうか。認知心理学は、こうした心の働きを科学的に明らかにしようとする心理学の分野です。本授業では、認知心理学に関する基本的な理論や考え方を学びます。			
到達目標	1. 認知心理学に関する基礎的な内容を理解し、説明することができる。 2. 日常生活における身近な出来事や現象について、認知心理学的な知見を当てはめ、考察できる。			
授業概要	座学を中心に、認知心理学に関する代表的な理論や考え方を取り扱います。やや難易度が高い内容も含まれますが、動画等も取り入れてできるだけ理解しやすいように授業を進めていきたいと思っております。			
授業計画				
第1回	イントロダクション	(授業の概要、認知心理学とは、情報処理プロセス)		
第2回	認知心理学の歴史	(心理学の3大流派、ブラックボックスとしての心、認知心理学誕生までの経緯)		
第3回	感覚	〔「感覚」→「知覚」→「認知」の流れ、外界情報の入口としての感覚器〕		
第4回	知覚	(感覚情報をまとめあげる働き、知覚には法則がある、様々な錯覚(錯視))		
第5回	記憶①	(記憶の種類、効果的な記憶法、忘却)		
第6回	記憶②	(情報を保管し参照する、記憶があるからこそ「理解」できる、記憶の変容)		
第7回	注意	(私たちは見ているようで見ていない、情報の取捨選択、注意訓練法、メタ認知)		
第8回	心的表象①	(知識はどのように保存されるか、命題とイメージ、AIで心の中が分かる?)		
第9回	心的表象②	(言語が人の思考を規定する?、スキーマ、思考の階層性)		
第10回	推論と思考法	(帰納法と演繹法、水平思考、人はみな科学者である)		
第11回	知能	(環境の処理能力と適応能力、知能の測定、知能は遺伝か環境か、非認知能力)		
第12回	睡眠と認知	(睡眠の意義、レム睡眠・ノンレム睡眠、睡眠不足がもたらす影響)		
第13回	心理療法と認知	(認知に働きかける心理療法)		
第14回	脳の構造と機能	(脳の構造および機能の概要、脳に関する病気)		
第15回	認知科学の応用と発展	(認知科学とAIの融合、VR暴露療法、ブレインマシンインターフェイス)		
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	学習内容の定着を図るため、毎回、復習を行うようにしてください。 授業で学んだことを、日々の経験や日常生活で意識的に当てはめ、考察・活用できるよう努めて下さい。			
履修条件 受講のルール	履修のための条件はありません。			
テキスト	毎回、講義用レジュメを配布します。			
参考文献・資料	服部雅史ほか 『基礎から学ぶ認知心理学 一人間の認識の不思議』 (有斐閣、2011年)			
成績評価の方法	毎回のコメントシート40%、試験60% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。			

オフィスアワー	月曜日もしくは火曜日の10:30～12:00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	—
学生へのメッセージ	認知心理学は、私たちがどのように外の世界をインプットし、処理し、アウトプットしていくかという一連の流れを研究していく学問であり、あらゆる心理学のベースにもなっている重要な分野です。 すなわち認知心理学をきちんと理解すれば、自分自身や他者、ひいては社会に対する見方が広がっていくと同時に、他の心理学分野の学習に際しても、その理解や習得がスムーズになると考えられます。